

神奈川県相模原市の大樹さん

特別住民番号1181

「大樹」という名は、父親である私が命名しました。
「大樹」の出生時、私は入院生活を送っており、数々の書物を読み漁っている毎日でしたが、ある歴史書に、幕末に活躍した吉田松陰の松下陋村と言へども誓って神国の幹とならんという言葉が目にとまり、それにヒントを得て長男であり、国とまでは言わないが、一家の幹(樹)となってもらいたい。それも太くて大きな樹にとの願いを込めて名付けたものです。



しかし、問題は「大樹」をどう読ませるかでした。「タイキ」、「ダイキ」でも良かったのですが、そのように読ませる者はい多いのではないかと考え、結局「ヒロキ」と読ませることにしたものです。北海道の地に、大樹町があるのは知りませんでした。お陰で輪が広がり、親として全国と同じ名前の仲間が、名前の通り育てほしいと心から願っています。(父)

北海道音更町の大樹さん

特別住民番号1183

ぼくの名前は、ぼくが生まれた時に、お父さんがかんがえて、つけてくれました。たいき町のたいきとかいて、ひろきとよみます。名字のふじ原に合わせて、ふじの野原に立つ大きな木のように、すくすくと大きくそだつようにと、つけられました。



青森県青森市の大樹さん

特別住民番号1186

うちの息子には、最初は「謙吾」と名付けようと思っていました。というのも、長男が少し元気がよすぎたので「少し落ち着いた性格の子」になって欲しいと思ったからです。「謙」という字は、まじめな性格の家内の父の名前の一字でそれをもらおうと思ったことに加え、謙きよの一字でもあるからです。ところが何となく顔を見てみるとそんな最初の考えもどこかへいってしまい、加えて家内の反対もありましたので再考することに……。



あとで聞いた話によると家内の母がどうしても「大」という字を使って欲しいと言ったそうです。長男の名前は「佑樹」というのですが、以前からこの「樹」という字が好きだったこと、それから大きく育てて欲しいとの思いから「大樹」と名付けました。長男の「佑」という字は「人を助ける」という意味があり、「人のそばにあって、さり気なく支えになる大きな樹のような男になって欲しい」との意で名付けましたが、次男の大樹には、そんな意義にははめ込まず、何でもいから大きな人間に、そしておおらかになって欲しいという願いから名付けました。おかげで、長男はガリガリなのに、次男の大樹は、食べる食べるで見かけもどんどん大きくなっていくようです。名はその人を表わすとはよく言ったものですが、もし大樹という名でなかったらどう育ったものか……。最後に、大樹も、大樹町もともに大きくなりますように……。 (父)

北海道三笠市の大樹さん

特別住民番号1188

私の名前は、大樹町の“タイキ”ではなく、“ダイキ”といます。由来は、くわしく両親に聞いてはいませんが、私の一番古いアルバムに書いてあるとのことでしたので、その古いアルバムを開いてみると、裏表紙に由来が書いてありました。「出生時、大きかったのと合わせ男の子らしく身も心も大きく育てほしいとの願いを込めて」と書いてありました。私自身、出生時そのままに大きく育ちまして二十数年生きてきましたが、名前がその人を表わすとしたら、誰よりも自分にピッタリなのは、私と“大樹”という名前だと胸を張っていえるでしょう。又、そのアルバムのすみに私に贈る詩として“今、生まれた一つの芽 太陽の光と、暖かい愛に包まれてスクスクと伸び 大きな樹になれ 大きな樹になってたわわに実をつけよ 大樹、君は男の子だ”と、泣かせる詩が書いてありました。



私もこれからは、身以上に、心を大きく育てながら、こんな素晴らしい名前をつけてくれた両親に感謝し、なおかつ、名前に負けないように歩んでいきたいです。

和歌山県和歌山市の大樹さん

特別住民番号1196

大樹(だいき)は、平成3年12月17日、予定より二週間早く、少し小さめの2,672グラムで産声をあげました。

両親、特に父親は、姓が「嶋」(しま)ということもあり、南の島にしっかりと根づいている大きな樹のように、人間として、大きくたくましく育つように、との願いを込めて、「大樹」と名付けました。母親は、「小さく産んで、大きく育てよ」の期待もちょっぴり込めました。



それから7年、現在、大樹は小学校の二年生です。2つ下の妹がいます。

初めての子供で、大事に育てすぎたのか、いつもマイペースで、競走心のない、おっとりとした性格ですが、素直にすくすくと育っています。

今年の夏、家族4人で根室市・釧路市に行く機会に恵まれました。日程の都合で、大樹町まで行くことはできませんでしたが、いつか大樹が大きくなって、自分と同じ名前の町のことをどう感じるのだろうか、と北海道の大自然の中でふと考えました。一人の人間としてたくましく成長した大樹が、大樹町を訪れる日が待ちどおしいものです。
(父)

北海道帯広市の大樹さん

特別住民番号1204

名前は、永久に残る大切な人間の記録だと思います。子供の名づけは絶対に大切な親の責任と考えております。どんな人でも子供の幸福を願わない親はいない筈です。私共も、どんな名が良い名前なのか字画を調べたりしました。名前が決まったのは、生まれてから数日が過ぎていました。



大器晩成型で良い、大きな人間に成り、人々に頼られ、信頼される人に成ってほしいとの思いもあり、又、ひびきが良いこと、親しみやすさ、聞き易さ、言い易さもと、あれこれと、欲張ってしまいました。

大樹は、二男で15年ぶりに生まれた子で、私も少しは、余裕をもって子育てをと思い、又、客観的に、我が子であっても日本社会人の一人なのだからと、自分に言い聞かせ乍ら育てました。躰としては、他人に迷惑をかけない、困っている人がいたら助ける、自分の行動は自分が責任をとることなどでした。5歳の時は、金沢の大学にいた長男の所に、一人旅に出かけ、五年生、中二とグアム、カナダにも行き、高校進学も、自分で決め15歳より寮生活、大学も高二の時に一人でアメリカに行き、三か所の大学より案内書を持ち帰り、現在はアメリカの大学院で、ドクターコースを学んでおります。総て、自分自身で決め、行動したのですから、親としては楽でした。今年、主人と大樹の大学に行って来ました。とても良い環境で、信頼出来る人格者の教授、スタッフに恵まれ、本人も毎日が充実していると聞き、これで良かったのだと安心して帰国致しまし

た。特別住民票カードをいただいておりますが、仲々帰国出来ず未だ大切に保管いたしております。いつか帰国した折には家族で晩成温泉にお世話に成りたいと楽しみにしております。此の様な企画と機会をいただいた事を心から厚くお礼申し上げます。
(母)

神奈川県川崎市の大樹さん

特別住民番号1212

私の名前は「くさうら だいき」です。両親の結婚記念日の3月9日に母の実家の青森で生まれました。「大樹」という名前は、母方の祖父が付けてくれました。「大樹町」という町が、北海道にあるという事は、知らなかったのですが、父が北海道の旭川育ちという事と、苗字が草浦なので、広大な草原にしっかりと根を張って生きる大木の様に、人生をたくましく生きぬいてほしいという思いで付けてくれたそうです。



祖父には息子がいなかったのも、孫の私に対する思い入れは、かなりのものだと思います。当の本人は、身長176.5センチ、体重58キログラムと、見た目ほっそりの二十二歳ですが、野球部の「朝・練」で鍛えた精神力で、時には残業で深夜に帰る事もあるハードな生活を頑張っているようです。仕事が忙しくて、旭川の祖母にも、青森の祖父にもなかなか会えないのが残念です。そのうち、北海道へ行って私と同じ名前の「大樹町」に、ぜひおじゃましたいと思っています。

東京都杉並区の大樹さん

特別住民番号1216

♪この木なんの木、気になる木。皆が集まる木ですから、というフレーズに憧れた訳ではありませんが、すくすく育って、皆が集まる様な、スケールの大きい人間になって欲しい。それが親の願いでした。

生まれる前は、男か女かという事は気にはしていませんでした。が、超音波での診断の際、お医者さんから、



「これが、オチンチンです。元気な男ですね」それから男の子の名前を考え始めたのです。つけた名は大樹。ひろきにしました。

自然が好きで山登りもしていた夫婦。海よりも山の方が好きでした。

山に登った際も大きな木を目じるしに、歩いていた記憶がよみがえります。

また、私達の姓も森山。森の山の中にそびえ立つ大きな樹。

何といい響きではありませんか(ちょっと親馬鹿ですが)。

今ではもう6歳になり、来年は小学校。

親の言う事も次第に聞かなくなってきました。でもそれだけ男の子らしく、大きく育てているということ。

何かとせわしい世の中、真っ直ぐにすくすくと伸びて行って欲しいと、願っています。

生まれる時に、頭の向きが悪いとか。仕事中に病院に呼ばれて延々と説明され、夜中の分娩に立ち合ってしまったとか。思い出は今も鮮やかに巡ります。

でもそんな話も将来一緒にお酒でも飲みながら話せばいいと思います。

いつまでも可愛い我が子よ。もっともっと大きく育て。そして人のよりどころになって欲しい。そんな願いからです。(父)

北海道恵庭市の大樹さん

特別住民番号1223

私達夫婦の長男であります大樹が生まれたのは、昭和60年3月24日でした。初めての子供が男の子だったので、家族みんなで喜びました。名前はお腹にいたときから、夫がいろいろと考えていたようでした。

3月生まれで、同級生になる子供達とは一年近くも離れていることもあって、



心も身体も大きくなってほしいという願いを込めて、命名しました。願ったとおりにすくすくと大きくなり、現在は中学三年生になり、身長はすでに母の私を追い越し、主人とほとんど同じになり抜かれるのも、間もなくの様です。

毎日元気に学校へ通い、友達と仲良くすごし、近所の方からも「大樹くん」と、親しく呼んでもらうのを見るにつけ、この名前にして良かったと、思っています。

今回縁あって大樹町の特別住民になることが出来、心から喜んでいきます。今後も我が子の成長とともに、大樹町の発展を願っています。(母)

千葉県佐原市の大樹さん

特別住民番号1236

日増しに秋も深まり、山々も色とりどりに染まった、平成3年10月25日。

「大樹(ひろき)」の誕生です。

自然に恵まれた環境の中で生まれ、すくすくと元気に大きく育ってくれますようにと願いをこめて、「大樹」と命名しました。

大樹は、大地にしっかりと根をはり、山を守り、枝には小鳥達が巣を作ります。暑い日には、木陰で、人や動物達が休息したり、集ったり。雨が降っても、みんなで雨やどりができるような……。そんなイメージの大樹です。

長男として、しっかりと家を守り、思いやりのある人になってほしいと願っています。幸い、今のところ、とてもやさしい動物好きな子に育ってくれています。

その後、長女「実紀(みのり)」、次男「幹央(みきお)」、次女「果純(かすみ)」と誕生し、4人の子供に恵まれ、9人もの大家族となりました。いつも、よく世話して、かわいがってくれるおじいちゃん、おばあちゃん、本当にありがとうございます。毎日、動物園のサル山のようににぎやかですが、私達にとって楽しく、充実した日々が送れることに、とても感謝しています。これからも、どうぞよろしくお願いします。

いつまでも、兄弟仲よく、助け合っていて下さい。

パパとママの大切な、大切な、4人の宝物さん達へ。(父母)

